

仙人通信 1 1 5 鷹の巣山(1737m)

鷹の巣山は奥多摩雲取山・七つ石から連なる山で、六つ石との中央にある山である。

今回は東日原にある鍾乳洞用の駐車場に車を置き、巳の戸橋・稲村岩尾根からの標高差 1100mのピストンである。

中日原の民家の間の階段を河原に向い下る。周囲ではヤマザクラやムラサキツツジが岩肌を染め、足元では、ニリンソウ・キケマン・エイザンスミレが可愛い。5分程で日原川に掛かった巳の戸橋だ。

橋を渡ると岩の根元に白い花が？、覗き込むとなんと『わさび』である。(帰りにお店に立寄り購入・・・)左手に鷹の巣谷の瀬音を聞き・キプシの花を眺めながら、木の葉に埋もれた階段を登る。

谷の中央に稲村岩の岩峰を見上げながら、右手の岩山に沿って、谷間を進む。1m前後の小さな滝が連なる谷川は、水量もあり見ごたえがある。崖には一面に30cm前後のハシリドコロが赤黒い釣鐘状の花を付け、春を告げている。小さな橋で岸部を3回ほど移動して、高度を上げて行く。

谷は殆んどが、角ばった乳白色の石灰岩である。信濃川上から白岩山を経てこの日原から・六つ石・御前山から五日市へと連なる秩父層と四万戸帯の境界である仏像構造線地帯である。3つ目の橋を渡り稲村岩の基部に着く。ネコノメソウが九十九折りの登山道を飾る。巳の戸橋から1時間で稲村岩の頂きである。日原鍾乳洞が梢越しに眺められる(岩の上からでは怖さはないのだが、尖った岩で柵もない・・・)ここから、かなり急登な岩尾根が始まる。瀬音に替り、ヤマガラ・キツツキ等の小鳥の声で和む山歩だ。アセビも白い花を付けて迎えてくれる。木々も芽吹く前のブナやミズナラへと変化し、山を肌で感じる。小さなピークかと思えば、次のピークが続く、かなりキツイ登りだ。尾根道と成ってからは、石灰岩から密度の低い砂岩質に替り、四万戸帯(小河内層群)に入ったようだ。

右手は八丁山をピークとした鷹の巣尾根が、後方には先に登った川苔山・三ツドツケや大栗山と日原を取り巻く山が、眼下には東日原の家並が梢越しに望める。30分程で左手が檜林なるも、日の光が入り明るい尾根道である。やがて水根山・城山が覗けるようになり雲取からの尾根伝いの高丸山等が見える。高度の指標は背中にある三ツドツケ等の山々だ。稲村岩から1時間55分でヒルメシクイのタワである。ガイドには、緩やかなコースとあったが5分程度で急登となる。駐車場から3時間40分で南側が開けた山頂である。山頂の道標の先に富士山が現れ「バンザイ～」である。東側には日の出山・大岳・御前山から三頭山、後方には大山・蛭が岳・御正体山・富士山・大菩薩が、更に白い甲斐駒や北岳や秩父の飛龍も望める。地図とコンパスでこの雄大な景観を楽しみました。

休憩後、弱い膝をサポートで固定し、靴の紐をしっかりと締めて、先ほどの背中の山を眺めながら、2時間半程で、駐車場に戻った6時間30分(24000歩)の山旅となりました。

エイザンスミレ



三角点のある山頂



富士山を中心に

